

宿根木集落における多様な交流の場づくり活動

敬和学園大学長坂ゼミ有志

中山 裕貴

仁平 玖央

1. 活動の背景と目的

昨年度の宿根木集落での取り組みを継続・展開するかたちで活動をおこなった。横井戸掃除の活動を展開し、横井戸までの「トレッキングコース（遊歩道）づくり」をすることで、地域住民の労力が軽減される。また、整備できれば、住民の健康促進と共に、町並みだけではない新たな観光の場づくりに貢献できると考えた。空いた時間でベトナム風路上茶屋を開き、地域住民や観光客とのゆるやかな交流の場をつくることにした。

2. 活動の内容—今年度の取り組み

2-1. トレッキングコースづくり

7月におこなった宿根木での顔合わせでトレッキングコースづくりの日程について調整し、8月に候補地の下見をした。森林の中の歩道が使われずにあるため、歩きづらいところを整備する案が出ていたが、11月の活動では、午前中に、地域住民と共に横井戸そうじをした場所を整備することになった。

入り口から横井戸までの落ち葉を掃き、足にひっかかる根を切り、側面の枝葉を切って、歩きやすいように整えた。また、トンネル状の隧道については、堆積した土砂を除去して隧道に入りやすいようにショベルでなだらかにした。天候に恵まれず雨の日が続いたが、カッパを着て作業を行った。安全対策を万全にしなければ観光客が歩くのは困難だが、地域住民が出入りできるようになるだけでも貢献できたと考えている。



2-2. ベトナム風路上茶屋

トレッキングコースづくりを主たる活動としたが、昨年度の活動を踏襲して、午後は宿根木集落入り口（駐車場）でベトナム風路上茶屋を開催した。学生が店主となり、今年度は地域住民や観光客に佐渡番茶を無償提供して、新たなコミュニティの場を創造するという試みである。雨天の時は宿根木を愛する会の計らいで、駐車場脇にある観光案内所の一角をお借りすることができた。路上茶屋では、佐渡番茶以外にも、「リサイクル米袋トートバッグ」や「オリジナルマグネット」の販売もおこなった。学生にとっては、多くの地域住民と交流する機会になった。

2-3. 交流促進のための物品販売

・米袋の活用

昨年度、宿根木集落で分けてもらった使用済み米袋を活用できないかと学生が考え、トートバッグを試作した。それを元に、新発田市の障害者支援会社で障害者に製作してもらった。伝統的家屋を保存する宿根木の雰囲気を変えないように、ベトナムの天秤棒とザルを使って、天秤棒にトートバッグを掛けて販売した。

・マグネットづくり

顔合わせに同席してくれた小木の地域相談員から「マグネット」を土産にする提案をもらった。宿根木集落内の木羽屋で端材を加工して宿根木の焼印を押し、オリジナルマグネットを作成した。それをリサイクル米袋トートバッグと合わせて販売した。



3. 今後の課題と提案

12月、宿根木集落にて報告会を開き、出席して下さった12名の関係者に、今年度の活動を中心に報告をした。トレッキングコースについては、側面を竹で覆うのはどうか、観光化するときの安全策を検討するなど、学生の活動に対する真摯なご意見をいただいた。また、路上茶屋に関しては、日中時間を限定して駐車場を開放し、広い場所でコミュニケーションを図ることをご提案いただいた。今年度の佐渡番茶の提供について、提供する学生が栽培場所や購入できる場所を説明したり、看板に書いてあったりするとよかったという改善点については、来年度の活動に反映させたい。

そして、集落側から出た「若い世代の人が宿根木を盛り上げていく体制」を、つくっていきたくて考えている。そのため、来年度は佐渡市内の小学生や専門学校生など多くの若者が関わるようなイベントを集落やNPO法人などと協力して開き、世代を超えた交流の場づくりを促進させたい。